

2015年10月2日（金曜日）

涸沢・奥穂高岳（3190m）二日目：涸沢チーム（紅葉散策）

～Report by 熊本（photo by 参加者のみなさん）

初日（1日）の夜から2日の明け方に、爆弾低気圧の影響を受けて風雨とも強い土砂降りであった。山頂登頂チーム（吉松、石井、高橋文、小山）と涸沢紅葉散策チーム（熊本、能勢、根岸、伊能、川島、布目）は、出発は一緒にすることにした。



朝食の4時ではまだ雨が降り続いていた。食堂に一番に並び、4:50に朝食開始する。



朝食後、17号室のベッドルームに全員集合し、本日の行動計画の確認を行った。

横尾山荘 談話室のTVで当地の一時ごとの天気予報を常時流していたが、これによると、雨が上がるのは7時以降のようである。

6時には出発の準備をし、雨が上がり次第出発することにした。



6時25分霧雨も上がり、屏風岩の頭に薄陽が射ってきて我々も出発の準備に取り掛かった。



6:35 雨も上がり、横尾山荘の前で写真を撮り、スタートした。



梓川に沿って行けば槍が岳への登山道だが、我々は横尾大橋を渡り、横尾谷への登山道に入る。(6:40)



クマ笹の茂る登山道を進み、出発して約 30 分で横尾岩小屋跡について、ここで小休止をとる。



朝陽に照らされた前穂高の前衛である屏風岩を見上げる。その先は厚い雲がかかっている。



平坦な登山道を暫く進むと、昨夜の強風で倒れた大木が何か所か登山道を塞いだり、山側からあられ流れ出た急流を渡りながら進んだ。



さらに進むと、先発したツアーの団体に追いつき、長蛇の列となり、マイペースで歩けなくなった。



出発して70分かかり、本谷橋に到着、ここで休憩の予定であったが、ツアー団体の前に進みたい、休まずにパスしてさらに先に進んだ。



本谷橋を過ぎると、本格的な登りで急登となった。

能勢さんが、浮石を踏んで転倒・強打し切り傷となったが、大きな問題はなく先に進む。浮石が多く要注意だ。暫くして、奥穂山頂登頂チームの4人は健脚を発揮し先行した。涸沢散策チームは、時間が十分余裕があるためユックリペースで登ることにし、今後は登頂チームの吉松さんと涸沢チームの熊本と簡易トランシーバで、連絡を取り合うことにした。



横尾本谷の沢には普段、水の流れは見えませんが昨夜の大雨で急流となっており、その上に綺麗に七色の虹がかかっていた。この辺りから木々が色付き始めていた。



高度を上げる毎に色づきは濃くなっていく。

涸沢も涸れていなく、激流のごとく流れていた。

しかし、遠く涸沢カールの辺りはまだ濃いガスに包まれている(9:30)。

このとき、吉松さんから連絡が入り登頂組が涸沢ヒュッテと涸沢小屋の分岐に到着したとのこと。我々からはまだ遠い。



遠くに涸沢ヒュッテの小屋が見えてきた。ここからが更に急登りになり、周囲のナナカマドは一層、赤く色付いてきた。



登頂組に遅れること35分で涸沢ヒュッテと涸沢小屋の分岐に到着した(10:05)。この時、登頂チームは涸沢ヒュッテで休憩し、これからザイテンクラードに向かうとの連絡が吉松さんからあった。



紅葉の色付きはさらに濃くなり、見ごろを迎えていた。



正に、紅葉のピークで2、3歩登っては全員がカメラを構えて撮りだし、一向に先に進まない。



横尾山荘を出発して4時間経過し、やっと涸沢ヒュッテに到着した(10:30)。早速、チェックインし今夜の宿を確保する。別館の2階で4人部屋が8名入る。布団一つに二人で、すでに枕が窓側、廊下側と交互に置かれていた。

涸沢ヒュッテのテラスで、横尾山荘が用意した昼食のクロワッサン弁当で腹ごしらえし、涸沢カールの紅葉散策に出かけることにした。吉松さんから、ザイテングラードを登攀中に小山さんが右膝を捻り、これからパノラマコースを下山するとの連絡が入り、我々が迎えに行くと返事した。涸沢ヒュッテに宿泊1名追加の受付を済まして、紅葉散策に向かい小山さんと合流することにした。



涸沢ヒュッテ近くから涸沢カールを眺めた紅葉の写真。これぞ雑誌やパンフで良く見る構図だ。



11:40 ヒュッテを出発し、カール紅葉散策周遊ハイクに出掛ける前に写真を一枚。



パノラマコースはガレ場の連続であり気お付けながら、ザイテングラードの取り付き地点に向かう



12:08 ザイテングラードのかなり手前で小山さん（ヘルメット）と合流した。
熊本は小山さんのザックを担ぎ、二人でヒュッテに戻る。
他の5名は予定通り、周遊コース散策を続けた。涸沢小屋までの紅葉や景観は下図の通り。





14:00 に涸沢カール紅葉散策チームが、ヒュッテに戻り、おでんをツマミに生ビール&熱燗で乾杯！

飲んでいると、吉松さんから連絡があった。14:10 に石井さん、高橋文さん、吉松さんの3名が無事、標高第三位の3190m奥穂高岳山頂を制覇し無事下山したとのこと。改めて我々涸沢チームも祝して再度の乾杯！



部屋に戻り、荷物の後片付けをしたが、夕食の17:30まで1時間以上もあり、食前酒をやることにした。

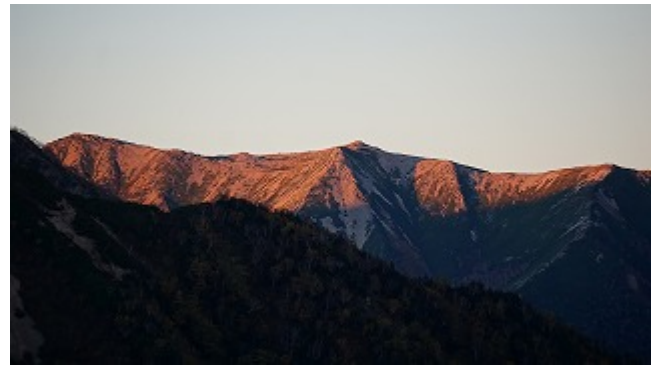
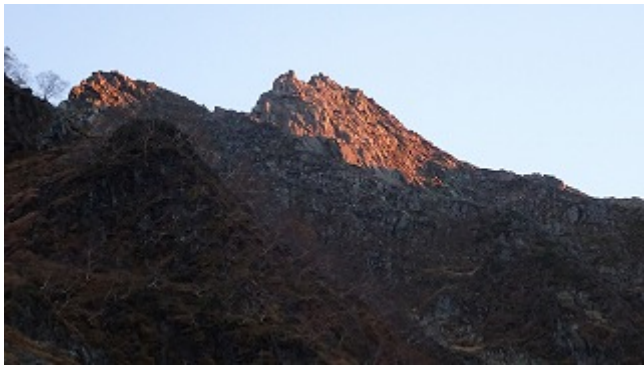
*枕が交互に置かれていることがわかる。この布団一つに二人寝ることになる。明日の土曜は3人だそうだ。やれやれ！



飲む場所がなく、一階の入り口の板敷フロアに車座になり、ストーブを囲んで焼酎で一杯やった。
クラブツーリズムツアーの登山コンダクターの女性が話好きで盛り上がった。



30分早めに食堂に行ったら17時で食事ができた。食事券など無く、自己申告で席さえあれば食べられる。



夕食後、外に出てみると17:30で丁度、日の入りの時刻で、前穂高岳山頂（左）と表銀座のルートである大天井岳（右）の尾根が夕焼けで真っ赤になっていた。ヒュッテはすでに日陰で寒く、6、7度であろう。



18時もう何もすることがなく、布団に入る。じょせいは交互にならず、3名並んで就寝。



左が能勢さんで頭が向こう側、真ん中のブルーの薄い寝袋が熊本で、横になればもう熟睡する（頭は手前）。

最近、熊本は、山小屋泊で寝相が悪く、隣に抱き着いたりしているそうだが本人は勿論自覚ない。

今回は薄い寝袋持参で手足が外に出ないようにしたが・・・・

左の能勢さんの頭をローキックで足蹴にしたそうなの・・・イヤハヤ・本人自覚なし

爆弾低気圧の影響もあまりなく、朝9時から快晴になり、涸沢の紅葉をたっぷり堪能した一日でした。

明日（土）の下山は、渋滞が予想されるため、当初計画より早めに下山する・・・

夢を追いながら、おやすみなさい。